

jazzLife

10

2009
OCTOBER
定価 880円

ジャズ入門
ファンキー・ジャズ

現地取材
スウェーデン・ジャズ紀行

フェンダー Road Wornシリーズ
徹底検証

エフェクター・インプレッション
「歪みの美学」

【ギター特集】

Our Guitar Heroes

永遠のギター・ヒーロー

レス・ポール追悼 / ジョージ・ベンソン
ロベン・フォード / 渡辺香津美

【スコア】

オール・ザ・シングス・ユー・アー
渡辺香津美

ブルー・ボッサ
ジョージ・ベンソン

ブルース・マーチ
アート・ブレイキー&ザ・ジャズ・メッセンジャーズ

ゴールデン・イヤリングス
レイ・ブライアント

ベラ・フレック

ロバート・グラスパー

野獣王国 / フライド・プライド

村井秀清 / 小林香織

デイヴィッド・フリードマン & 山下洋輔



The Night Shines Like The Day Kristin Asbjornsen



Emarcy
602517899040

■1 Green Is Everywhere 2 If This Is The Ending 3 Snowflake 4 Don't Hide Your Face From Me 5 Africa 6 And I Long To See You Again 7 I'm Too Heavy Now 8 Walk Around Me 9 Moment 10 Rain, Oh Lord 11 One Day My Heart Will Break 12 Someday I'll Carry You Home 13 Lose

■Kristin Asbjornsen(vo) Tord Gustavsen(p,kb) Scante Henryson(cello, b) Olav Torget(g) Knut Aaledjaer(perc) Jostein Ansen(vo, lap steel) Sitwe Magwaza(vo) Nils Petter Molvaer(tp/10)

■Recorded at Rainbow Studio, Oslo

2007年公開の映画「酔いどれ詩人になるまえに」のサントラを担当し、他にも多くのプロジェクト、セッションに参加し、娘の登り高いノルウェーのシンガー・ソングライター、クリスティン・アスビョルンセンの新作(全曲英語詩)。バックはトルド・グスタフセンのピアノを中心とし、ゲストにニルス・ベッター・モルヴェルが参加する北欧ジャズ・サウンド。フォーキーなタッチに加え、ハスキーな歌唱で人生をも感じさせる。時には少女のようなピュアな歌唱を垣間見せ、幅広い表現力に魅了される。北歐の空を超え、大都会の夜の孤独すら想起させる充実の一作。(小川浩)

In A Dream Gretchen Parlato



Oblivion Records
OSD-CD-107

■1 I Can't Help It 2 Within Me 3 Butterfly 4 In A Dream 5 Doralice 6 Turning Into Blue 7 ESP 8 Azure 9 On The Other Side 10 Weak

■Gretchen Parlato(vo, perc) Lionel Loueke(g, voice) Aaron Parks(p) Derrick Hodges(b) Kendrick Scott(ds)

■Recorded at Kampe Studios & Legacy Recording Studios, NY Sept 18 & Dec 17, 18, 2008

2005年のデビュー作から1年、グレッチェン・パラートの第2作の登場。今回もリオネル・ルエケ、アーロン・パークスが参加しているが、1作当時より存在感を増した才人達の高度なブレイトと相俟って聴き所の多い秀作アルバムとなった。ジャケットのイメージは一時代前のレトロなムードだが、それと異なる今日のジャズ・ヴォーカルの世界がある。彼女が2歳時の録音のサンプリングも試み、マイケル・ジャクソンの「オフ・ザ・ウォール」からの曲(1)、ハンコック(3)、ショーター(7)などを歌い、ルエケ、パークスらのソロ・パートも聴きもの。(小川浩)

Lima Beans Bert Seeger



Invisible Music
IM-2044

■1 Prelude 2 How High Is The Ocean 3 Learning To Trust In Love 4 Introduction 5 Rockume 6 Wait Less 7 Coming Home 8 Bounce 9 Everything I Love 10 When Singing Just Sing

■Bert Seeger(p, vo/10) Jorge Roeder(b) Jorge Perez Albela(ds)

■Recorded on Jan 29 & Mar 26, 2009 at WGBH Fraser Performance Studio, Boston, MA

ピアニスト、パート・シーガーの最新作。ボストン在住のシーガーと南米ペルー・リマ出身のベース、ドラムス奏者によるトリオ・アルバム。標題の「リマ・ビーンズ」とは、ボストン市の愛称が「ビーン・タウン」であることから付けられた。②⑧では南米のリズムが生かされているが、エスニック・ジャズではなく、チェンジ・オブ・ベース的な効果を果たしてちょうど良い感じだ。コール・ポーターの⑨以外はシーガーのオリジナル。特にバラッド調の曲での美しいメロディが印象的だ。⑩でシーガーは歌も披露しており、そのAOR的なテイストが面白い。(小川浩)

Plays Jobim Fred Hersch



Sunnyside Records
SSC1223

■1. Por Toda Minha Vida 2 O Grande Amor 3. Mais 4 Meditacao 5. Insensatez 6. Brigas 7. Modinha/Olha Maria 8. Despretensao 9. Corcovado

■Fred Hersch(p) Jeremy Haddad(perc/6)

■Recorded at Ambient Studio, Stamford, CT

フレッド・ハーシュの新作はアントニオ・カルロス・ジョビン曲集。パーカッションを加えた1曲を除きピアノ・ソロによる録音。単なるジョビン・ヒット・メドレーではなく、ハーシュはその音楽の魂をクラシカルなタッチを交え再構築し、アーティスティックな志の高いアルバムとなった。ジャケット・デザインのイメージから受ける明るく楽しげなボサ・ノヴァ曲集の予想は心地よく裏切られ、聴いた後には重層級の満足感が残る。ハーシュが敬愛するジョビン研究の成果は、数多く存在するジョビン・トリビュート物とは一線を画する優れたものを生み出した。(小川浩)

Say It Plain Scotty Barnhart



Unity Music
DIG 137

■1 Giant Steps 2 Say It Plain 3 The Burning Sands 4 Haley's Passage 5 Dedicated To You 6 Put On A Happy Face 7 Con Alma 8 Jhana 9 Young At Heart 10 I've Never Been In Love Before 11 I'm Glad There Is You 12 Pay Me My Money

■Scotty Barnhart(tp, flumpe/14) Wynton Marsalis(tp/7) Clark Terry(tp, vo/12) Ellis Marsalis(p, 5, 11) Marcus Roberts(p/1, 3, 6) Bill Peterson(p/2, 6, 9, 10, 12) Bruce Barth(p/7) Lindsey Sarjeant(p/4) Rodney Jordan(b, exep/7) Greg Williams(b, ss/1, 3, 4, 8) Rick Lollar(g/2, 4, 12) Harlin Riley(tambourine/2) Etienne Charles(perc/7) Marion Felder(perc/7)

スコッティ・バーンハートは、1980年代から90年代初期にマーカス・ロバーツ(p)のグループで頭角をあらわし、カウント・ベイシー・オーケストラのメイン・ソリストを17年務めているトランベッターだ。フロリダ州立大学の教授、「The World of Jazz Trumpet - a Comprehensive History」の著者としても知られている。その満を持した初リーダー作は、マーカス・ロバーツを始め、ウイントン・マーサリス、クラーク・テリー、エリス・マーサリスら、ジャズ界の保守本流が集結したアルバムだ。スウィート&メロウなトランペットの音色が、美しい。(常盤武彦)

Fascinating Rhythms Bud Shank Quartet



Jazzed Media
CDJM1045

■1 The 2 Over the Rainbow 3 Fascinating 4 Night and day 5 Lotus Bud / No res 6 In Walked Bud 7 Lover Man 8

■Bud Shank(as) Bill Mays(p) Bob Magnusson(b) Barbara(ds)

■Recorded live at the Jazz Bakery Los Angeles on 1/28/31, 2009 by Paul Pegas

1940年代からウェスト・コースト・ジャズを支えている大ヴァンガード・バンド・シャンのレギュラー・カルテットの解散ライブを捉えたアルバム。ホーム・グラウンド、ロサンゼルスを代表するジャズ・クラブ、ジャズ・ベイカリーで、今年の1月に収録された。当年83歳のシャンの演奏は、嬰響(かくしゃく)、飄々というだけでなく、長年の愛奏曲に、興味深いリズム・アプローチで、新たな息吹を与えている。ピアノのビル・メイズの好サポートが随所で光り、シャンとのデュエットの⑦は、殊々のパフォーマンスと言えよう。シャンの逝去が惜しまれる。(常盤武彦)

Wildlife Joe Morris



AUM FIDELITY
AUM-036

■1 Geomantic 2 Thicket 3 Crow 4 Nettle

■Joe Morris(b) Pete Candura(ts, as) Luther Gray(ds)

■Rec 2008 3 18

フリー・ジャズ界の巨匠たちを好サポートするベーシスト、ジョー・モリスの新作は、抜群のスウィングと妖しいビートが呪縛に絡み合った快心のトリオ作。特に注目にはチェコ出身で現在はブルックリンを中心に活躍するカンクーラ。フリーでアヴァンギャルドで、でもモーダルで、まるで70年代ロフト・ジャズ全盛時に多く聴かれた音。フレーズの作り方がちょこっとトリスターノしてるし(笑)。それにしてもモリスのウニウニベースは快感。ほんとに喋り声やないの? と、どんどんヴォリュームを上げてしまいます。ピアノレス・サクソ・トリオの決定盤になるかも。(浅野廣太郎)

Still Urban Fred Frith and Arto Quartett



Intakt
Intakt CD-153

■1 Part 1: Landscape With or Without Edges 2 Part 2: Door Won't Open, Door Won't Close 3 Part 3: Nervous When I Turned 4 Part 4: Family Ties 5 Part 5: Science to Someone Living 6 Part 6: Glass and Mirror Cut to Size 7 Part 7: Everywhere Hilarity We Followed 8 Part 8: Two Blinkings of an Eyelid 9 Part 9: Near Future Faith

■Fred Frith(g) Beat Holstetter(ss) Sascha Armbruster(as) Andrea Formentini(ts, ss) Beat Kappeler(bs)

■Rec 2008.1

泣く子も黙るフリー/ノイズ界の重鎮フリスが、93年からヨーロッパを中心に現代音楽やインプロ系サクソ・アンサンブルとして活躍中のアルテ・カルテットとともに自身の作品を演奏するアルバムが2枚出た。その1枚。濃密なのにどこか爽やかな感じのするアンサンブルに、偉大フリスの異オキギターが挿入される瞬間の緊張感は最高だ。音の持つ「スピード感」のカッコ良さを堪能できる。思ったより難解な作品ではなく、どこか牧歌的でスマートな感じ。「都会の風景をイメージした」ということかどうだろうか? ⑧では全編あのノイズ・ギターを楽しめて感動。(浅野廣太郎)